



A I 時代の到来に向けて私たちは

毎月11日は「人権を確かめあう日」です

近い将来、日本で働いている人の仕事の約半分がA I（人工知能）やロボットに取って代わられるかもしれないと言われています。2020年には、小学校でプログラミングが必須となり、A I時代への社会の流れに、学校、教育も呼応していきます。

さて、A Iが得意なことは何でしょうか？ A Iは、膨大な量のデータを記憶し、指示通りに分析し、瞬時に答えを出す。このことは、人間はA Iに遠く及びません。

しかし、A Iにも苦手なことがあります。A Iには論理的思考力がないので、想定外の事態が起きたとき、対応できません。また相手の気持ちを察してコミュニケーションをとることもできません。また、社会には、一つの問いに対して無数の答えがあることが多いのですが、A Iは正解が一つしかない問いにしか答えられません。

こんな時代だからこそ、人間にしかできないことを考える時ではないでしょうか？ 人間にしかできないこと、それは、論理的な思考力を磨くこと、芸術に触れ発想力を豊かにすること、柔らかい頭で日々学ぶこと、そして、様々な人と交流し、様々な考えに触れ、コミュニケーション力をつけ、思いやりの心を学ぶことなどです。

昨今は、スマホなどで簡単にコミュニケーションをとることができるようになりました。でもコミュニケーションは、本来、直接会ったり、話したりすることにより、培われていくものではないでしょうか？ 時にぶつかり、時に認め合ったりする中で、相手を理解し、尊重していくことができるのではないのでしょうか？

分からない事柄や言葉などが出てきた時も、簡単に検索することができます。そうしたことが、人間から思考力を奪っているのかもしれない。

今こそ、大切なことは何か考えませんか？ A Iやロボットと上手におつきあいしながら、誰もが笑顔で暮らせる社会を目指して！

宇陀市人権啓発活動推進本部

2019. 5

※この啓発ビラへのご意見・ご感想は

☎07475-82-2147 または iinken@city.udalg.jp